



L. 286 No. 40





春曙抄一

枕草紙ハシハ清少納言ナリ乃ノ早ハヤ也ヤ少コ納言ナリハ清原ノ元輔ノハシとシ也
あれハをシ世ヲをシ用ヒてシ清少納言ト乃リ父ノ元輔ハ撰シ
集ノ撰者ヲ利シ重ク乃リ人ノハシとシ

清原氏系圖

天武天皇

舍人親王イヒト

貞代王

有雄

通雄チウ

チウ賜清原姓

海雄ウミノリ

房則フナノリ

深養父フカヤブ

内近ウチチカ允藏人所ノ雜色

頭忠アタリタカ

泰元タカミ下野守

元輔タカミ

肥後守

清少納言

タカミ清原の御子

言ハ乃リ清原ハ清少納言ト乃リ一条院ノ皇太后ノ女ノ君トシテ
けハ皇宮ト乃リ侍ルハシ中國ト白道ト陸ノ公ノ所ノ止ル也ト乃リ定メ子ト乃リ侍ル也ト
草紙ノ撰ル者ト乃リ人ト乃リ撰ル也ト乃リ撰ル者ト乃リ撰ル也ト



叶巻及馬義誰人より也。勘物といはれり。米巨ハ教考
と之を従ひ奥出乃る由は本と因作らんよとがあらざるや
又一本上下無誤をこゝに官内は清原氏乃奥出あり清原
より一紙分たれよははりなきふらるるは。と次花初の次
芽みと大きに異也。又法が納書乃再よ。物終一版と云
つねに下は幸と先を乃月ひき了る由乃奥出なること
も。其の巻及馬義教考乃其れ奥出の幸れなること
古人乃月より法初のり。その後拾遺千載集新古今
續古今玉葉集等より。法が納書乃再。河去やうと
皆いふ事此とあり。及。その外。順徳院乃禁秘抄八雲抄
も。小法が納書が初よりありと云ふ事。と。基後
乃夜目抄よ音聲家乃雷抄事あり。兼。妙法師乃往來抄
より。其れ事。と。か。る。は。紙。の。い。き。を。と。り。ひ

らねる事あり。又。其れ本乃。と。い。ひ。も。が。異。事。あり。と。い
ふ。か。り。り。ち。あ。ら。う。と。い。ふ。事。と。又。合。せ。し。中。う。り。ま
を。月。ひ。作。り
け草紙の中ち。素經乃抄下用ありと。中。傳。入。傳。ね。ら。う。と。い
ふ。傳。り。ず。只。多。年。け草紙をよ。と。い。ふ。事。も。事。の。れ。だ
食。を。と。い。は。れ。く。か。ら。う。と。い。ふ。事。も。林。中。抄。事。も。も。と
延喜式。西宮抄。山抄。又。び。双。葉。抄。乃。及。乃。出。あ。ら。う。と。い。ふ。事。の
う。ち。あ。れ。を。以。て。身。抄。秘。抄。雲。圖。抄。二。系。大。同。法。正。抄。年。中
行。事。抄。再。合。代。額。一。系。祥。園。法。正。乃。る。事。根。源。を。と。り。か。ん。ぐ。ん
官。位。乃。り。ハ。官。位。令。職。原。抄。百。寮。訓。要。抄。乃。と。用。ひ。家。々
所。ハ。順。和。名。集。拾。遺。抄。乃。勘。名。所。ハ。再。抄。事。あり。と。い。ふ。事
け草紙を。と。り。ひ。は。せ。せ。さ。せ。ら。う。と。い。ふ。事。も。八。雲。抄。抄。を。と。り。ひ。分。て

用竹の枝老茂思春乃動物よりとせし人この官考系圖
 傳ふといふに補任大系圖系花物大鏡作者部類等より
 なるありて行舟ハ万葉集古六帖之代集よりこの代
 乃撰集家ハ集号小勅ハ神社ハ日本紀之代實録迄其書
 下部乃家説書を引くハ佛のうへに経を勅ハ古語ハ漢
 家乃諸書より人ハ古詩ハ文選文集のこひ菅家文革本朝
 文粹朗詠集より日よとて於我の詩文よりハ新ワキと歌事
 ありハハ心請集抄多分ハ竹のむらハ衣服乃らハハ餘抄枕葉集
 葉ありハ河海抄抄多餘抄ありハ類やとハ朝乃やハ保氏伊
 傍物抄乃諸抄を引くハ其大勅物抄抄夜夜拾遺古今著聞
 江談からハ竹のむらハ古物抄抄多分ハ竹のむらハ竹のむら
 又紙乃便とて竹のむらハ竹のむらハ竹のむらハ竹のむら

春ハあけのやうく白く
 うりゆく 曙アケル物用
 春ハあけのやうく白く
 うりゆく 曙アケル物用
 春ハあけのやうく白く
 うりゆく 曙アケル物用

春ハあけのやうく白く
 うりゆく 曙アケル物用
 春ハあけのやうく白く
 うりゆく 曙アケル物用
 春ハあけのやうく白く
 うりゆく 曙アケル物用

八月入とよらびい
八月小女叙位給望福

乃位階を叙せり
重圖抄
西宮抄
月晴則所生之物

延喜式
供御七種粥料
斗五升粟
子胡麻子

かゆのすもひ
かゆのすもひ
かゆのすもひ

八月入とよらびい
をよつひとわらふ

乃位階を叙せり
重圖抄
西宮抄
月晴則所生之物

延喜式
供御七種粥料
斗五升粟
子胡麻子

かゆのすもひ
かゆのすもひ
かゆのすもひ

さきさきのばい
回物
みづり
かゆのすもひ
かゆのすもひ
かゆのすもひ

さきさきのばい
回物
みづり
かゆのすもひ
かゆのすもひ
かゆのすもひ

Handwritten text in Arabic script, right page, top section. The text is arranged in approximately 12 lines, starting with a large initial letter. The script is dense and cursive.

Handwritten text in Arabic script, right page, bottom section. This section contains approximately 12 lines of text, continuing the style of the top section. It includes several lines with smaller, possibly marginal or explanatory text.

Handwritten text in Arabic script, left page, top section. This section consists of about 12 lines of text, beginning with a prominent initial letter. The handwriting is consistent with the right page.

Handwritten text in Arabic script, left page, bottom section. This section contains approximately 12 lines of text, continuing the main body of the manuscript. It features several lines with smaller text, likely serving as a commentary or additional notes.

正月一日三月

元日上巳乃三月のつひ
うらむらふス年俵あり
まをばらわたりし

五月のつひ三月
黄梅乃時常あり
小時

あか 三月のつひ
三体詩云ふ
雨用 事文類聚云重陽
日臨雨凄々 駿馬蓋前泥
拍膝 竜山會上 水平脚

可部世諺同答云一
可部世諺同答云一
可部世諺同答云一
可部世諺同答云一

正月一日三月

元日上巳乃三月のつひ
うらむらふス年俵あり
まをばらわたりし

五月のつひ三月
黄梅乃時常あり
小時

あか 三月のつひ
三体詩云ふ
雨用 事文類聚云重陽
日臨雨凄々 駿馬蓋前泥
拍膝 竜山會上 水平脚

可部世諺同答云一
可部世諺同答云一
可部世諺同答云一
可部世諺同答云一

乃のつひ三月

守合乃つひ三月

乃のつひ三月

乃のつひ三月

乃のつひ三月

乃のつひ三月

乃のつひ三月

乃のつひ三月

乃のつひ三月

乃のつひ三月

乃のつひ三月

乃のつひ三月

乃のつひ三月

乃のつひ三月

乃のつひ三月

乃のつひ三月

乃のつひ三月

乃のつひ三月

推中將 勅物ヲ推中將成
信 四品兵部少輔平親王同
從四位上左近中將は名
まの年

定代信乃 勅物ヲ長保
二年三月十七日以定證
補真福寺別當

山名ヨリ 真福寺
リシガ名不比等の建
立シテ亨釋書小書

近衛つとむ 定代長保
成信名信乃近衛中將
乃あを警固とて 誠也近衛
乃あを警固とて 誠也近衛

乃あを警固とて 誠也近衛
乃あを警固とて 誠也近衛

乃あを警固とて 誠也近衛
乃あを警固とて 誠也近衛

を山までしり 別當よりしりてよるる
リとの月 近來つらさめく 誠信よりし

きくしりしりしをさくまきしり
ゆいしりしりしをさくまきしり

ゆいしりしりしをさくまきしり
ゆいしりしりしをさくまきしり

ゆいしりしりしをさくまきしり
ゆいしりしりしをさくまきしり

ゆいしりしりしをさくまきしり
ゆいしりしりしをさくまきしり

ゆいしりしりしをさくまきしり
ゆいしりしりしをさくまきしり

ゆいしりしりしをさくまきしり
ゆいしりしりしをさくまきしり

ゆいしりしりしをさくまきしり
ゆいしりしりしをさくまきしり

ゆいしりしりしをさくまきしり
ゆいしりしりしをさくまきしり

ゆいしりしりしをさくまきしり
ゆいしりしりしをさくまきしり

ゆいしりしりしをさくまきしり
ゆいしりしりしをさくまきしり

ゆいしりしりしをさくまきしり
ゆいしりしりしをさくまきしり

ゆいしりしりしをさくまきしり
ゆいしりしりしをさくまきしり

ゆいしりしりしをさくまきしり
ゆいしりしりしをさくまきしり

ゆいしりしりしをさくまきしり
ゆいしりしりしをさくまきしり

ゆいしりしりしをさくまきしり
ゆいしりしりしをさくまきしり

ゆいしりしりしをさくまきしり
ゆいしりしりしをさくまきしり

ゆいしりしりしをさくまきしり
ゆいしりしりしをさくまきしり

ゆいしりしりしをさくまきしり
ゆいしりしりしをさくまきしり

ゆいしりしりしをさくまきしり
ゆいしりしりしをさくまきしり

乃あを警固とて 誠也近衛

ゆいしりしりしをさくまきしり

乃あを警固とて 誠也近衛

ゆいしりしりしをさくまきしり

乃あを警固とて 誠也近衛

ゆいしりしりしをさくまきしり

勅書にて執事等々を呼
びて之の所々を批判の
事なり

村上帝、何れにても
左へをくく、
多しんをば氣程を
感りぬ

中宮の所、
ア、
ア、
ア、

人の心とやら
あつて、
あつて、
あつて、

あつて、
あつて、
あつて、
あつて、

あつて、
あつて、
あつて、
あつて、

あつて、
あつて、
あつて、
あつて、

あつて、
あつて、
あつて、
あつて、

あつて、

あつて、

あつて、

あつて、

あつて、

あつて、

あつて、

あつて、

あつて、

あつて、

あつて、

あつて、

あつて、

あつて、

あつて、

あつて、

あつて、

あつて、

あつて、

あつて、

あつて、

あつて、

あつて、

あつて、

あつて、

あつて、

